

# 研修費（ 濱岡歳生 ）出張報告書

令和5年2月20日

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 氏名<br><br><b>濱岡歳生</b>          | 研修項目<br><br>第26回地方から考える<br>「社会保障フォーラム」セミナー参加 |
| 期 間 令和4年4月24日から<br>令和4年4月25日まで | 研修先<br>東京都千代田区丸の内1-1-3<br>日本生命丸の内ガーデンタワー3F   |

## 研修概要・意見

講義の概略は別紙

## 意見

講義1—生活困窮者自立支援にあたって、一方的な関係ではなく相互に支えられる関係づくりが重要だと思った。

講義2—消費税5%から10%への増収分のうち約4兆円が社会保障費に充てられていることの紹介があり、この財源を多くの意見を聞き有効に使ってほしいと思った。

講義3—令和5年4月1日創設予定の、こども家庭庁、常に子どもの視点にたった、こどもの権利条例など踏まえた、こども政策の強い司令塔になって頂きたいと思った。

● 第26回地方から考える社会保障フォーラム

講義1 厚労省 社会・援護局長 山本麻里氏

「コロナ禍の経験を踏まえた地域共生社会の実現」と題して、生活困窮者自立支援制度や生活保護支援制度などについて講義を受けた。

コロナ禍で高齢者の交流機会が減少し、自殺者が11年ぶりに増加。このような背景から、生活困窮者の自立と尊厳の確保と生活困窮者支援を通じた地域づくりを目標とする、生活困窮者自律支援制度の導入を進めるとした。また、生活保護についても、「コロナ経験を踏まえた見直しが必要」と強調。生活困窮者自立支援制度と生活保護制度の「重なり合う支援」の実現に向けた議論を深め、就労基準支援事業、家計改善支援事業等のより一層の連携方策を検討すべきとの考えを示した。

今後の支援については、具体的な課題解決をめざすアプローチとつながり続けることをめざすアプローチの両輪とする「伴走型の支援」が重要であり、地域共生社会の実現に向けて、多分野協働のプラットフォームの整備が必要だとした。

山本氏は、「人間は一方的に支えられるだけでは自己肯定感は生まれない。支援にあたって、一方的な関係ではなく相互に支えられる関係をめざす。地域には様々な資源が転がっており、それを本当の地域資源にしていくことが重要」と述べた。

厚労省 大臣官房会見課長 鳥井陽一氏

**講義2** 2022年度の厚生労働省予算をテーマに講演

令和4年度厚労省予算は一般会計が33兆5160億円と過去最大。うち、社会保障関係費が33億1833億円で、その他の経費が3327億円となった。高齢化等で増加を見込む一方、歳出改善による削減の結果、前年比の伸びは、1.1%に抑えられたと説明した。

令和4年度の社会保障関係費の伸びは、制度改正等により▲2200億円となった。大半は薬価改定等によるもので、そのほか後期高齢者医療の患者負担割合の見直しや、被用者保険の適用拡大等によるもの。鳥井氏は、「申し訳ない部分もあるが、ぎりぎりの努力をしていく必要があるだろう」と述べた。また、コロナ禍の影響を受けて消費税引き下げの議論がされていることに触れ、消費税5%から10%への増収分のうち約4兆円が社会保障関係費に充てられていると紹介し、その意義を強調した。

厚労省 大臣官房審議官 川又竹男氏

**講義3** 「子ども家庭政策の現状と課題」と題して、少子化やこども家庭庁創設などについて講演

少子化の現状について、新型コロナの流行が影響し、婚姻件数や妊娠届け出数が減少傾向にあると指摘。出生数も減少傾向が続いているとした上で、

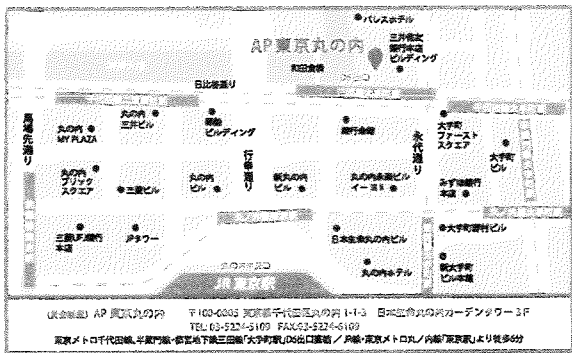
「これが一過性のものであればよいが、今の段階で今後を見通すのはやや難しい」と述べた。

現在、国会では「子ども家庭庁」創設に向けた関係法案が審議されている。

子ども家庭庁は総理大臣直属の期間と位置付けられ、子ども政策の強い司令塔機能を持つ組織となることが説明された。子ども家庭庁の大臣は、各省大臣に対する勧告権をもつ。子どもの福祉や保健を目的とする法律や事務が子ども家庭庁に移管されるが、子どもに必要な不可欠な教育は従来通り文部科学省の担当とする。政府は子ども家庭庁の創設時期を令和5年4月1日としている。

川又氏は、「子どもまんなか社会」の実現に向けて、常に子どもの視点に立ち、子どもの権利条例なども踏まえて、子ども家庭庁の創設を目指している」と述べた。

会場案内図



会場(会場) AP 東京丸の内 〒103-6565 東京都千代田区丸の内1-1-3 日本生命丸の内センタータワー3F  
 TEL: 03-527-5109 FAX: 03-527-5109  
 東京メトロ千代田線、半蔵門線、有楽町線三田駅(丸の内線)の出口東橋 / 丸の内線丸の内駅 / 丸の内線丸の内駅より徒歩10分

**社会保険年報** — 雇主に開かる全ての情報を提供 —

Web版  
雇主さま専用です！

**医療 介護**  
Nursing/Infirmity Compensation

**年金 特約**  
Supplemental Pension

● 雇主の権利や責任、罰則についてわかりやすくお伝えします。  
 ● 介護との連携や年金控除の働きなどもタイムリーに知ることが出来ます。  
 ● 社会保険フォーラムをダイジェストで読者のご質問の要旨と「対応」の概要を掲載。

凡本誌をご希望の方、最新のお申込みをしたい方は (株)社会保険研究所までご連絡ください。  
 TEL: 03-3252-7901 (代)

第26回 地方から考える「社会保険フォーラム」セミナー 参加申込書

|            |  |   |
|------------|--|---|
| お名前        | 〒  | 〒 |
| ご住所        | 〒  | 〒 |
| 参加の<br>ご形式 | <input type="checkbox"/> 会場 <input type="checkbox"/> オンライン (Web版をDで受け取ります) |   |

※ご記入いただいた個人情報は、フォーラムへの参加いただく皆様への案内・情報提供の目的に使用させていただきます。弊誌にあたっては、おまかせ印刷の完全無償印刷を承じ、漏えい、紛失、毀損または不正アクセス等の防止に努めます。

FAX 03-3527-1028 または  
 MP <https://tirare.jp/> [セミナーお申し込み] よりお申し込みください。

- お申し込みいただいた方には事務局から受付完了のメール(アドレス記載のない場合は FAXにて)をお送りいたします。3日経っても届かない場合はご連絡ください。
- 事務局からメールが届きましたら、メールに記載の口座へお振込みをお願いします。
- オンライン参加の方には詳しく説明方法を随時にご連絡いたします。

TEL 03-3253-0570 不明な点は、お電話でお問い合わせください。

最新の情報には本誌のホームページからご確認ください。 <https://tirare.jp/>

# 第26回 社会保険旬報 地方から考える 社会保障フォーラム

2022年4月25日(月)

山本 麻里氏 厚生労働省社会・援護局長  
 「コロナ禍の経験を踏まえた地域共生社会の実現」

鳥井 陽一氏 厚生労働省大臣官房会計課長  
 「22年度の厚生労働省予算」

川又 竹男氏 厚生労働省大臣官房審議官(子ども家庭、少子化対策担当)  
 「子ども家庭政策の現状と課題」(仮題)

ポストコロナの日本社会と社会保障について、政策担当者や専門家と一緒に考えてみませんか。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

2022年4月25日(月)

4月13日(水)までに 25,000円(消費税込み)をお振込みください。

(貸会議室)AP東京丸の内 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-1-3日本生命丸の内センタータワー3F

地方から考える「社会保険フォーラム」事務局 〒101-2067 東京都千代田区神田2-3-3 丸の内ビルディング5階501号室  
 TEL 03-3253-0570 / FAX 03-327-1028

株式会社 社会保険研究所 / 年金企画部 / 株式会社出版社 / 新フィスマック

# PROGRAM 本日はおから巻と、おから味噌ワッフル

|             |   |
|-------------|---|
| 9:50~       | 受付開始  |
| 10:10~      | 開講の挨拶、オリエンテーション   |
| 10:15~11:30 | <b>11-1</b> 「コロナ禍の経験を活かした地域共生社会の実現」<br>山本 麻里氏 厚生労働省社会・援護局長                                      |
| 11:30~12:00 | 討論(30分間)  |
| 12:00~13:00 | 昼休み ※12:45~12:55 <b>12-1</b><br>「地方自治体におけるコロナ禍での健康管理の取り組みに」 協賛(株)社会保険出版社 太田 真吾氏                 |
| 13:00~13:40 | <b>13-1</b> 「[2021年版自殺対策白書]を読む」<br>白崎 哲史氏 株式会社フィスメック<br>「令和4年度診療報酬改定の概要」<br>谷野 浩太郎氏 株式会社社会保険研究所 |
| 13:40~13:50 | 休憩(10分間)  |
| 13:50~14:50 | <b>13-2</b> 「22年度の厚生労働省予算(仮題)」<br>鳥井 陽一氏 厚生労働省大臣官房会計課長  |
| 14:50~15:20 | 討論(30分間)  |
| 15:20~15:30 | 休憩(10分間)  |
| 15:30~16:30 | <b>13-3</b> 「子ども家庭政策の現状と課題(仮題)」<br>川又 竹男氏 厚生労働省大臣官房審議官(子ども家庭、少子化対策担当)                           |
| 16:30~17:00 | 討論(30分間)  |
| 17:00~      | 終了の挨拶   |
| 17:05       | 終了  |

## オンラインご参加者様へ

- 当日はZoomのウェビナー機能を活用したセミナーを受講していただきます。ウェビナーはミーティング機能と異なり、講師側の先生方のカメラや音声は通常はオフになっており、ご質問をいただいたときのみ、質問者の先生の音声とカメラをオンにすることが出来る機能です。PC・タブレット・スマートフォンでご参加いただけます。

※本日はZoomのウェビナー機能を活用したセミナーを受講していただきます。ウェビナーはミーティング機能と異なり、講師側の先生方のカメラや音声は通常はオフになっており、ご質問をいただいたときのみ、質問者の先生の音声とカメラをオンにすることが出来る機能です。PC・タブレット・スマートフォンでご参加いただけます。

- お申込者ご本人のみ参加・ご視聴いただき、セミナーの録音・録画はご遠慮いただきますようよろしくお願いいたします。
- 資料は事前にダウンロード配布いたします。
- 当日は、質疑応答の時間への積極的なご参加をお待ちしております。

- ご来場の皆様におかれましては、マスクのご着用をお願いいたします。
- 会場入口付近での、検温にご協力くださいますようお願いいたします。
- 体調がすぐれないようにお見受けされるご参加者様につきましては、運営スタッフがご声掛けさせていただきます、ご退会をお願いする場合がございます。

- 運営スタッフは、マスク着用で対応させていただきます。
- 受付付近など会場各所に、アルコール消毒液を配備いたします。

今後の状況に応じて、延期または全面的にオンラインセミナーとしての開催も想定しております。今後の連絡に関しましては、HPに告知するとともに、電話・Eメール等で個別にご連絡を申し上げます。